

浜コ三協だより

令和4年度

第18号

●「浜コ三協」は「浜浦小学校区コミュニティ協議会」の略称です。●この広報誌は新潟市の地域活動補助金を受けて発行しました。

より暮らしやすい地域へ

会長 池田 伸一



今年の4月から浜浦小学校区コミュニティ協議会（以下「浜コ三協」という）会長になりました信濃町一区自治会長 池田です。

縁あって会長を引き受けることになりましたので、よろしくお願いいたします。

これまで、浜コ三協の自治会として、活動をしていく中で、地域の色々な課題が見えてきています。一番の大きな問題は子ども達が少なくなっており、一方高齢者世帯は多くなっていることです。一人暮らしの高齢者、認知症の高齢者の方など毎日のゴミ出しや買い物などに困っている方も多くなっています。お互いにちよつとしたことを助け合つて少しでも長く住み慣れた自宅で過ごして頂きたいと思つています。大きな課題ですが自治会としてやれることは避難訓練や公園清掃、ごみス

テーションの管理、班長さんの活動支援など日々の活動の中で、住民同士の親睦を深め助け合う人の輪を隣り近所から広げていくことが大切だと思います。

浜コ三協は、浜浦小学校区の16の自治会・町内会を始め関係団体が毎月1回定例会を開催し、お互いの活動状況や課題などを話し合い、気づきを得て各団体の活動がより活発になって行けるようにと活動を続けています。それによつて地域の皆さんがより暮らしやすい地域になると思っています。一方、これまで先輩たちが地域の皆さんの親睦や一体感を深めることを目的に長年続けてきた浜浦小学校、関屋中学校、日本歯科大学の3校合同演奏会などの活動は、残念ながらコロナ禍で今年度も自粛せざるを得ませんでした。コロナ感染終息後はこの3校合同演奏会などの活動を再開し、地域の方々と親睦やつながりを深めていきたいと思っています。



令和3年10月9日区民協働森づくり事業(クロマツの苗400本植樹)(浜コ三協と市の協働事業)

部会報告 — その3

認知症を地域全体で支える 認知症の人と家族の気持ちとは

福祉・教育部会
部会長 遠山 恒夫

2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になると予測されています。そこで認知症の研修会を行いました。講師は公益社団法人「認知症の人と家族の会」新潟県支部副代表の等々力務さんです。等々力さん曰く、まず知ってほしいのは、認知症は誰でもがなり得る病気だということです。そして、家族の誰かが認知症になった場合、家族だけで支えるのは大変な病気だと言うことです。私たちは定期的に介護者同士の集まりを開催して支援を行っています。地域の方々も認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かい目で見守り、認知症の人と家族の方々が安心して暮らせる社会を創ることが重要です。



「認知症の人と家族の会」の受付風景

部会報告 — その4

大地震における 住民行動について

防災部会
部会長 渡邊 俊英

- 1 その時住戸内にいた家族が相互に状況を確認しあう。
- 2 火災が発生していたら、まず消火を試みる。
- 3 応援が必要な場合は大声で助けを求め、隣近所の人々と状況を確認しあう。
- 4 隣近所で助けを求めている人を応援する。
- 5 応答のない住戸については大声で声をかけ状況を確認する。特に高齢者や単身の家庭などは必ず安全確認をする。
- 6 負傷している人がいる場合は、応急手当をする。
- 7 防災委員・班長はできるだけ早く自治会の防災対策本部に行き、状況を本部長に報告する。
- 8 手の空いている人は声を掛け合い、できるだけ早く対策本部に集結し本部長の指示で活動する。

生活基盤が失われたら頼るのは横のつながりです。災害時の行政活動には限界があります。普段から地域の人とのつながり、顔の見える関係を築きましょう。

部会報告 — その5

中央区長 ミーティングの報告

総務部会
部会長 池田 伸一

11月22日(月)浜コミ協の定例会で中央区の日根区長以下5名の方々をお迎えし区長ミーティングを行いました。浜コミ協からの地域課題や意見要望に対して区長から丁寧な説明がありました。また汐見台自治会から防犯灯の電気代負担が大変だという意見が出され担当が持ち帰って検討することになりました。

1. 浜コミ協は毎月定例会を開催し、地域課題や事業の進捗などの情報を皆で共有し、地域一体となつて取り組んでいる。その一方で少子高齢化による担い手不足は浜コミ協だけでなく全学的な課題である。他のコミ協の先行事例などの情報を提供し、今後も一緒に意見交換していきたい。
2. 来年度から始まるコミュニティスクール構想では、子ど



3. 区民協働の森づくり事業は浜コミ協の先輩方が発案し、地域や小学校などと協働してクロマツの苗を植えてきたが今年度で完了できた。今後は地域の皆さんと協働でクロマツの除伐や海浜植物園の植栽などを実施していきたい。海浜植物園は維持管理が比較的容易な植物を栽培することとし、市民の憩いの場になるよう整備してまいりたい。
4. タコ公園(関分記念公園)の東屋復旧や老朽化施設の更新は、公園利用者の安全に配慮しながら整備に取り組んでまいります。公園の日常的な清掃などの管理は引き続き地域でお願いしたい。
5. 新型コロナウイルス感染防止のワクチン接種については12歳から15歳までの小・中学生は個別医療機関で1,2回目の接種は概ね終了。現在、集団接種会場を開設しているの必要な方は利用して頂きたい。本市も3回目接種に向け準備に着手。

部会報告 — その1

区民協働の森づくり事業

環境・整備部会
部会長 白井 強

私たちの活動は、6月6日(日)の「子供の松林」でガールスカウト14名、ト14名、浜コミ協4名、計18名の少人数でしたが、松林の整備から始めました。

次に区民協働の森づくり事業では「海浜植物園」にクロマツの苗を500本植樹致しました。植樹の前の9月7日(火)に浜浦小学校4年生の「砂防林の勉強」をリモート授業にて当顧問田村さんが講師として指導され、29日(水)同日4年生72名を含め総勢100名で1000本植樹しました。続いて10月9日(土)関屋中学校の生徒、先生120名、一般の参加者を含め総参加者200名で400本を植樹致しました。この事業はこれで完了となりますが、平成25年から始まりました通算9年間の植樹累計は5590本となりました。



勢100名で1000本植樹しました。続いて10月9日(土)関屋中学校の生徒、先生120名、一般の参加者を含め総参加者200名で400本を植樹致しました。この事業はこれで完了となりますが、平成25年から始まりました通算9年間の植樹累計は5590本となりました。

強く伸びています。参加された方々を始めとして関係者の皆さんに改めてこの場を借りて感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。



区民協働森づくり事業



部会報告 — その2

東京五輪・パラリンピック2020

文化スポーツ部会
部会長 阿部 修一

令和3年度に予定しておりましたフロアカーリング大会等全ての計画を、新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年同様中止いたしました。

今年度のスポーツイベントとして、何と云っても史上初めて1年延長された東京五輪(7月23日(8月8日、17日間)とパラリンピック(8月24日(9月5日、13日間)が挙げられます。

大会前には聖火リレーが全国で行われ、新潟県内では6月4、5日に14市町村(ランナー173人)で実施されました。色々な安全対策が取られましたが、萬代橋などでは観覧者が密集状態でした。

大会開催に当たっては、新型コロナウイルス「共生」や「多様性」の理念に多くの共感が集まったと言われています。100年後に、この大会がレガシーとしてどの様に評価されているのか気になる所です。

大会を通じて、選手が体現した「共生」や「多様性」の理念に多くの共感が集まったと言われています。100年後に、この大会がレガシーとしてどの様に評価されているのか気になる所です。

ナウイルス禍という未曾有の危機の中、批判と混乱はありましたが、無観客で行うこととなりました。東京五輪は42競技、2000を超える国・地域から約1万1千人、パラリンピックは22競技に約4千4百人の選手が参加しました。今回の五輪で日本が獲得したメダル数は、史上最多を大幅に更新しました。(表-1)

パラリンピックでは、新潟県出身の山田美幸選手(銅)がメダルを獲得しました。



表-1 メダル獲得数

順位	国名	金	銀	銅	合計
1	米国	39	41	33	113
2	中国	38	32	18	88
3	日本	27	14	17	58
1	中国	96	60	51	207
2	英国	41	38	45	124
11	日本	13	15	23	51

コミュニティ・スクール制度の導入に向けた取組や考え方など

地域とともにある学校づくり

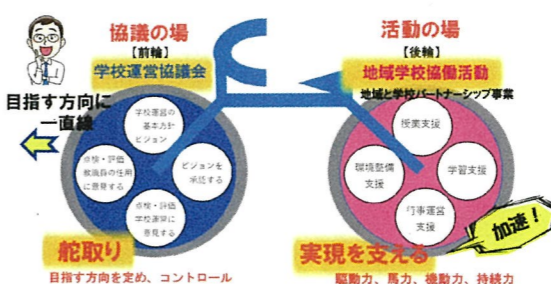
浜浦小学校教育成会
会長 小林 武士

新潟市でも、来年度より文部科学省のほうで推進している学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域総がかりで、子どもたち「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育むコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)がスタートするとのこと色々調べてみました。

まずコミュニティ・スクールとはどういうことかと思いましたが「保護者や地域のニーズを反映させるために、地域住民が学校運営に参画できるようにする仕組みや考え方を有する形態の学校」とありました。

ここ浜浦小学校区はコミ協など地域の方々にとっても協力的に活動して頂いていますが、コロナの影響で今はなかなか学校と我々保護者との連携や共同での活動や取り組みなどが少し難しい状況になっていと感じています。コロナの感染者も落ち着いてきていますが、新たな取り組みが推進される頃には終息し、気兼ねなく様々な活動が出来るかと期待をしています。まだまだ手探り状態でのスタート

トにはなりません。教育委員会や学校がリーダーシップをとって、先ずは地域に根付いた長期的で明確なビジョンを提示して欲しいと思います。そして、そのビジョンを地域の方々や我々保護者が共有することによって、その先の学校、保護者、地域との更なる強固なトライアングルの形成が実現されるものと信じています。



また、この活動では様々な方々も参加される為、幅広い意見やアイデアが出て議論を深めることで、今まで以上に活動の活性化に繋がって欲しいと思います。さらにこの活動は浜浦小学校区にとどまらず、関屋中学校区、最終的には新潟市内のすべての地区において学校・保護者・地域が手と手を取り合い、協力して、未来の子どもたちのためのより良い意見交換ができる場となり、学校を取り巻く環境を飛躍的に向上させることを願っています。

今年もよろしく お願いいたします

浜浦小学校
校長 齋藤 純一



いつも浜浦コミュニティ協議会をはじめとする地域の皆様には、当校の教育活動への御理解と御支援をいただき、本当にありがとうございます。当校の子どもたちが、安心して学校に通い、思い切り学習に取り組めるのも、保護者の皆様とともに、地域の皆様温かく見守られているおかげだと、日々感謝しております。

さて、この2年間は、子どもたちはもちろんのこと、私たち教職員にとっても、全く経験したことのない状況の連続でした。全国一斉休校から分散登校と、全国的に教育活動が様々な形で停止しなければならなかった1年目。様々な感染症対策を講じて、新たな教育活動を模索し続けた2年目となりました。学校現場では必要不可欠

である人との接触を、とにかく制限する時期が過ぎました。学習は、一人でもできる内容も人とかかわって、人からの意見を聞いて、学びを深めていきます。当校では、この2年間修学旅行を実施してきました。確かにネットで様々な情報を入手できます。しかし、現地に行つて、自分の目で見て、自分で触つて確かめることが大切です。現地で人と出会い、直接話を聞くことで分かることが、本当に多いのです。

コロナウイルス感染症の収束は、未だ見えません。この原稿を書いている今も、海外からの新たな変異種の存在が大きく報道されています。これから数か月後にどうなっているのか、本当に予測が難しくなっています。しかし、そのような中で、浜浦小学校では、保護者や地域の皆様の御協力の下、感染症に負けない、新たな形での教育活動を展開していくしかありません。

浜浦小学校は、今年も精一杯の対応策を講じながら、一步一步着実に進みます。引き続き、当校への御支援のほど、よろしくお願いたします。

コミュニティ・スクール導入に向けて 浜浦小学校地域教育コーディネーター

佐藤 愛子 藤本麻由美 小川 美月

いつもパートナーシップ事業にご協力いただき、ありがとうございます。



下校指導

いよいよ来年度より浜浦小学校でもコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)が始まります。今までの「地域と学校パートナーシップ事業」を更に発展させ、子どもや地域の未来に向けて、保護者・地域・学校が「地域総がかりで子どもの成長を支えていく」という取り組みです。

先日の研修会では、すでにコミュニティ・スクールが始まっている学校のコーディネーターから「学校と地域の風通しが良く



ミシン点検



2年お店訪問

私たちコーディネーターの役割は、子どもがより良い環境で教育を受けられるよう、授業や行事をサポート

トしてくださる地域の方々や学校の橋渡しをすることです。コミュニティ・スクール開始後もその役割は変わりませんが、学校が一層地域に開かれ、地域とともに歩む教育を進めることができるように活動を続けていきたいと思っています。

今後とも地域の方々のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



コーディネーター紹介

コミュニティ・スクール制度の導入に向けて

関屋中学校
校長 山田 聡



2022年度よりコミュニティ・スクール(以下CS)制度が始まります。CSとは、地域住民の皆様への理解を得て、地域の宝である児童・生徒を健全に育むための教育活動を、地域と学校が協働して行っていくこととことです。今までは学校評議員会を開催し、学校経営に際して学校評議員の皆様から意見をいただきながら、学校を運営してまいりました。それをより一層充実・発展させるために、新たに、学校評議員会をより強化した組織として、「学校運営協議会」を立ち上げます。この「学校運営協議会」を軸としてCSの運営に向かうのです。今後は、この活動をCSの中に移行していくこととなります。

新潟市教委は、CSを導入して、地域とともにある学校の姿として、

- 以下の3つを示しています。
 1. 保護者、地域、学校が「学校運営の基本方針」を共有している学校
 2. 保護者、地域、学校で「社会に開かれた教育課程」を実現している学校
 3. 保護者、地域、学校が一体となり、「地域総がかり」で子どもの成長を支える体制のある学校これらの内容の共通理解を図った上で教育活動を推進し、保護者・地域・学校が一体となって子どもの成長を支えていくことです。地域の住民、保護者、学校関係者の誰もが、「地域の宝である子どもたちが健全に成長してほしい」という思いは共通です。地域と学校を例えれば、車の両輪であり違う方向を向いていては車は真っすぐ進めません。子どもたちの健全育成という共通する目標に向けて、学校運営の基本方針を共有し、社会に開かれた教育課程を一緒に実現していく。そのために子どもたちを支える体制を力合わせて整えていくこととことです。これを実現するための取組がCSにあたるわけですから、この事業に関しては、地域の皆様からの協力なくしては成り立ちません。ともに同じ方々を向くもの同志として、地域の皆様からの温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

地域活動の再開に向けて

中央区役所地域課
中谷 麻由子

浜浦地域の皆様には、日頃から地域課の事業や取り組みにご協力いただき感謝申し上げます。

地域課では、地域の皆様と地域課題の解決に取り組むとともに、魅力ある地域づくりを推進するため、文化・スポーツ・産業の普及推進に関する事業を行っており、今年度も「特色ある区づくり事業」として、人口減少・高齢化の進む「しもまち地域」の活性化事業、まち歩きやフォトコンテストによる魅力発信事業、古町芸妓や新潟漆器、発酵食などの伝統産業PR事業を実施しました。

一方で、8月から9月にかけては、市内において新型コロナウイルスの感染状況がピークを迎え、やむなく変更や中止に至った事業もありました。皆様の地域においても、活動の開催・中止のご判断や実施する場合の対策方法などに悩まれたことと思います。

秋以降、感染状況がやや落ち着きましたので、今後は、新年度に向けて活動の再開や新規事業についても地域内で検討される機会が増えるのではないかと思います。



市では、皆様の地域活動の一助となるよう、昨年度末に「地域活動における感染症対策ガイド」(内容はQRコード参照)を作成し、感染症防止のための留意点や事例別の感染症対策などについて、実際の活動例とともに紹介しています。このガイドは、今年度当初に「コミュニティ協議会」と自治会・町内会にもお配りしておりますので、活動再開にあたっては、こちらの内容も参考にさせていただきながら、参加される皆様と共に、安心していきいきと活動できる環境を整えていただきますようお願いいたします。



この地に開館して32年目を迎えた当館には、貸出し可能な8室の他、読書・学習のできるフリースペースや図書室があります。

8室の利用には、事前に5名以上の方が集まって団体の登録が必要ですが、趣味の団体だけが利用していただけるわけではありません。例えば、親子の遊び場



文化人探訪

昭和町交差点から徒歩一分

関屋地区公民館
樋山 光仁

知りたいということでしたら、当館主催の講座に参加するのはいかがでしょうか。関屋を学ぶ「おもしろ関屋学」や「文化人探訪」乳幼児期のお子さんを持つ人の「家庭教育学級」や親子で遊ぶ「まっぼづくり」小学生を対象にした「わくわくランド」や「将棋クラブ」などたくさんあるので、皆さんの講座を有意に活用しています。



将棋クラブ

この講座に参加した人たちが仲間になつて、さらに公民館をご利用いただけたら、こんなに嬉しいことはありません。公民館は、その活動を一生懸命応援していきます。

当館は地域の皆様だれでも利用できる施設です。コロナ禍ではありますが、皆様のご来館をお待ちしています。

協力団体紹介

福祉活動にご協力を

浜浦地区社会福祉協議会
会長 山口 信三

日頃より、「社会福祉協議会の会費・「赤い羽根共同募金」・歳末助け合い募金」等にご協力頂きありがとうございます。

このコロナ禍「生活困窮者」「母子家庭」など、資金需要は以前より格段に増えています。然しながら、この誇れる浜浦地区の一世帯当たりの浄財額は、中央区内では最低水準で推移しています。各自治会・町内会が一括して納入するケースが殆どです。自治会役員には、前例(前役員・前年度)に囚われずに、当協会の活動をご理解頂き、一層のご協力を強くお願いいたします。

活動面では、浜浦小・関屋中の地域教育コーディネーター、公民館の子育てネット「まっぼづくり」中央区社協としては「地域の茶の間」「見守り事業」等に対する助成を行いました。

新年度はコロナが収束し、今年開催できなかった民生児童委員・公民館包括支援センター共催の「ちいきのつどい」などの行事・催物が出る環境になる事を皆さんと共に望みたいものです。

フードドライブを立ち上げる

浜浦地区民生委員児童委員
主任児童委員 富田 静江

日本のこどもの7人に1人が貧困状態にあると言われています。私達の周りには関係の無い話だと思っていました。3月の部会研修会でそれは間違いだと分かりました。コロナ禍で、新潟でも貧困家庭が増えているのです。そこで、私達民生委員児童委員は何かできないかと考え、地域の公民館を拠点にフードドライブを始めることにしました。



委員(右) 富田 静江
主任児童委員(左) 富田 静江
フードドライブご家庭で使い切れない食品等を寄付して頂く活動です。この活動に関屋地区公民館から協力を得て、2階の事務所で品物の受け付けを行っています。集まった品物は2週間ごとに民生委員児童委員が、フードバンクに届けています。地域の皆さまのご協力には感謝しています。この活動を長く続けていく為にも更なるご協力をお願いいたします。

また、この活動を通じて、地域の皆さまの協力を得て、2階の事務所で品物の受け付けを行っています。集まった品物は2週間ごとに民生委員児童委員が、フードバンクに届けています。地域の皆さまのご協力には感謝しています。この活動を長く続けていく為にも更なるご協力をお願いいたします。

浜浦スポーツ振興会 今昔

浜浦小学校区スポーツ振興会
会長 中静 浩一



昭和40年代後半新潟市が全国に先駆けて小学校を開放しママさんバレーはじめ卓球、バドミントン、民謡他の各サークルが誕生し、そのまとめ役としてスポーツ振興会が設立されました。近年は生涯スポーツとしてバウンドテニスも加わり、金衛町第二自治会長で全国大会優勝経験の輝かしい成績を残されている遠山ご夫妻の指導のもと、毎週水曜日親子でプレーを楽しみほほえましい光景も見られています。

又当会のラジオ体操教室は毎年夏休み前に授業の一環として5・6年生を対象に前に立つ指導者講習として30年余も継続している事が認められ平成29年に続きかんぽ生命保険株式会社、日本スポーツ協会、全国ラジオ体操連盟から表彰の栄誉を受けました。今年も少年野球大会、ラジオ



体操連盟から表彰の栄誉を受けました。今年も少年野球大会、ラジオ

編集後記に代えて

事務局 遠藤 新一

浜コミ協だよりの発刊にあたりこの地域のみならず、興味のあるトピックスも読み物として提供したいと検討していたら、令和4年8月に関屋分水が通水50周年を迎えるということで、せっかくの機会ですから国交省北陸地方整備局信濃川下流河川事務所の結城様に原稿をお願いしたところ快諾を頂きました。

おかげ様で最終ページを特集として組むことが出来ました。その話の中で昔この地域に競馬場があったことも知らない人が増えている話になりました。競馬場の付くお店もなくなりましたが踏切にその名残があると



探してみました。機会があればみなさん切内での写真撮影には十分ご注意ください。

関屋分水はもうすぐ50歳

信濃川下流河川事務所
結城 明日子

関屋分水は、なぜ必要だったのか

大昔、越後平野は海でした。そこに、川が大量の土砂を運び、海の底にたまった土砂を波や冬の季節風が陸に向かって吹き上げ、長い年月をかけ、山や砂丘地帯が海岸線に沿って伸びた現在の地形になりました。そのため、自然のままでは水はけの悪い地形となっており、古くから洪水に悩まされてきました。

関屋分水の開削計画は、治水対策として江戸時代から何度も出され、明治43年には坂井郷普通水利組合が現在の関屋分水とほぼ同じ位置に「関屋堀割」を通水させたこともありました。この堀割は数年で埋まり始め、十数年後には全く通じなくなりました。

昭和に入り、日満交通上の要港として新潟港の埋没対策として、信濃川と港を分離させる「信濃川河口分流案」と「関屋分水案」が提示されました。

昭和30年代頃になると地盤沈下の顕著化もあり、「関屋分水案」

が支持され、分水計画が具体化し、昭和39年3月、県により関屋分水事業は着手されました。

当時、分水計画を実現すべく尽力された、横山太平さん（大正初年より終生分水計画を説いた先覚者）、柏原正雄さん（当時の新潟県議）北村一男さん（当時の新潟県知事）の3名の銅像が関屋分水記念公園に建立されています。

信濃川を埋め立てる予定だった

県の計画は、信濃川の全流量を分水から直接日本海側へ放流し、分水岐点から万代橋までの信濃川を川幅40メートルほど残して埋め立て、その土地の売却益を事業費の一部とする予定でした。

新潟地震が事業に与えた影響

しかし、事業着手のわずか約3ヶ月後の6月16日に新潟地震が発生し、人命、家屋・建物、インフラ等に甚大な被害をもたらしました。更には埋め立て予定地の危険性が明らかとなり、売却ができない見込みが立たなくなりました。



新潟地震

そのため県は、予算の面から工事は白紙に戻すとの声明を出し、大きな反響を巻き起こしました。

河川法改正 信濃川は一級河川へ

昭和40年、河川法が改正され信濃川が一級河川に指定されると関屋分水事業は国の直轄事業として施工されることとなりました。

関屋分水と競馬場移転

「関屋分水事業」を進めるにあたり、分水予定路線の居住者約700戸の移転先が最大の課題でした。一方で、地方競馬（新潟県競馬）を開催してきた関屋競馬場では、中央競馬を再開（誘致）したいけれど日本中央競馬会から承認を得られない状況でした。

昭和36年に新潟を訪れた政界人から「関屋の競馬場を郊外へ移したらどうだろう。地元にも競馬会にも都合じゃないだろうか」と投げかけられ、これをヒントに県は、関屋競馬場を分水予定路線の居住者の移転先にあて、新たな地に競馬場を建設し、等価交換するという計画で日本中央競馬会と合意に至ったのです。



関屋分水予定地と関屋競馬場跡

移転とその後、新しい町の誕生

一つの町がそっくり移動するほどの大規模な工事が進められたわけですが、病院、工場、商店、幼稚園、市営住宅、民営アパート、個人住宅などの多くは近くの関屋競馬場跡地に移り住み、今の「信濃町」「文京町」という新しい町が生まれました。「堀割町」という地名も、前出の「関屋堀割」の名残といわれています。

関屋分水の掘削土砂は、新潟バイパスの盛土や新潟市の都市基盤を築くことに利用されました。

昭和47年8月10日、遂に関屋分水は通水の日を迎えました。

そして今、豊かな水空間の創出

関屋分水は、緩やかな傾斜の堤防「やすらぎ堤」の整備を可能としました。今では、「遊歩道」や「緑地」などの周辺整備とも連携し「水都新潟」のシンボリックな空間となっています。

令和4年8月10日、関屋分水は通水50周年を迎えます。



(左) 通水式、(中央) 新しい町、(右) 掘削がほぼ完了した関屋分水路